江戸名所圖會

九

和書門
類 八八七〇
號 一七六三
函 一二六
架 二〇
冊

内閣文庫
和書
類 八八七〇
號
冊 二〇
函 一七四
架 八

内閣文庫
番號 和 8870
冊數 20 (9)
函號 174 36

綴じ部（喉部分）の文字など開きが不鮮明な箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

四谷　四谷御門の外より西の方内藤新宿のあゝり迄の惣名之里

老云此地の四方より谷あり故より四谷と号くると　南向亭云く　肴麩町

地小谷有しが寛永十三年外廓営造の時堀の揚土を以て東西の両谷を埋め　六七丁目の地と塩町辺

なる故小平地となりしと旧名ハうしかぶと云く　塩町の入口を今も坂町と守る其

故也又古へ坂ゆく有りし頃ハ民家一軒ありて夫婦ゝゝの人居住せし故夫婦

坂と呼しと云く

或人云ふ入國の頃ハ今の糀町両側番町永田町より至る本多弥八郎高木九助両家

の下屋敷とし下ゝ置れしゝ共城近により市谷の臺此原を永代の

御誂ゆゝ下しゝ人表四百八十間より只四人指置れしゝ四家とゝ

此地ハ永禄の頃霞村とよゝくるると云伝ゝ或云往古此地ハ武蔵

野より續ける曠原ゆく此所彼所小土民の家四家あるゝ故

四家と云ゝ共ゝ事跡合考より往古今の尾州公屋敷表門の地及び

高井戸の方より四ッ家と称しく往来ゝ共ゝ民家四軒あるゝ鳴子坂町其余二所

牛頭天王社　同所傳馬町一丁目二丁目の間の左側の横小路を入く

二丁斗り西より　故より俗字しく此小路を天王横町とゝふ　祭神素盞嗚尊　本地佛ハ薬師

本より四谷の人家開けく神主ハ芝崎氏　弘法作紫の一

産土神とすると　神田明神の神主ゝ　別當を寶藏院也

宗門　真言宗中野　宝仙寺末

祭禮ハ毎歳六月十八日同所石切町傳馬町二丁目の横町を云

国立公文書館
National Archives of Japan

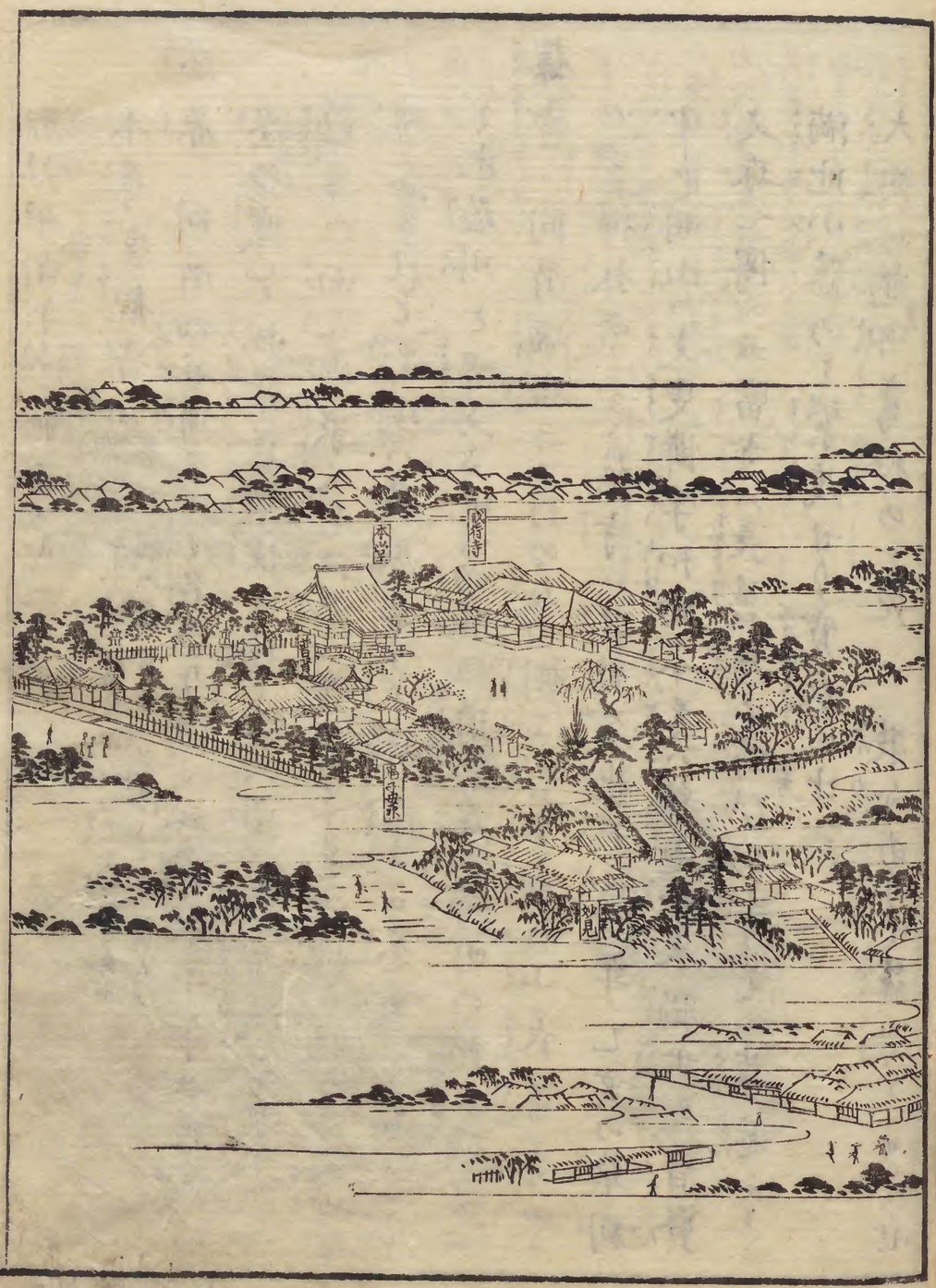
旅所へ神幸あり〻廿一日帰輿も地主ハ稲荷明神に〻
共より此地の産土神と崇む行基大士の作と（本地ハ十一面観音）

鬼子母神　同所坂の下南寺町日蓮宗日宗寺より安置せり（当寺旧ハ町清水谷より在て乗蓮寺と号を此地へうつれて後藤堂大学頭高次の室高見院心月日宗大姉の法号を採て山を高見と号し寺を日宗と唱へ其家より寺院再興あり）本尊鬼子母神の像ハ日法上人の彫像なり相伝ふ文永元年十月三日日蓮上人四十三才妙君を拝せんとて旧里安房國小湊より帰る妙君悦の餘ひ頓死せ上人大ゐ歎て生活の祈念をせんとて先徒弟日法上人に命して此尊像を造らしむ依此尊像より祈願し給ふに験あり〻暁蘇生しぬ後寿を保つ事四年あり鎌倉住人鎌田氏某此霊像を傳来せしが其尊の霊ふかきより〻享保十三年当寺より安置し給ふと〻

妙典山戒行寺　同所南より隣る日蓮宗ゆ〻延山に属せり寛永の頃迄ハ糀町一丁目の御堀端にあり〻常唱題目修行の庵室なりしを近隣宮重氏庵主と共に力を合せ〻遂に一寺とせ當寺の日貞師ハ山本勘助晴幸入道道鬼斎の孫ゆ〻延山日悦上人の徒弟し寛保中八十余歳當寺ハ明暦に至て此地に迁さる德門の額に妙典山と書せ〻朝鮮國李彦の書し此所の坂を戒行寺坂又其下の谷を戒行寺谷と唱へ〻

分身鬼子母神（寺中圓立院に安置せ定朝の作し始四谷北伊賀町永田安節医師の家に傳来せ来由ハ長くれハ茂に略し記さず）

汐干観世音菩薩　同所南寺町戒行寺の裏の坂口真言宗錦敬山真成院にあり此尊像ハ越後國村上義清の守佛し其末流村上兵部入道道樂斎大坂御陣の時上杉景勝に従ひ奥州米澤より彼地に趣く後江戸に帰り當寺に収むるといへ（或人云此尊像ハ塩踏観世音と号く村上天皇護身の像なり依て村上肥後守を造て安置せ大坂御陣の時村上



日宗寺
戒行寺
汐干觀音

覚玄和尚第三世看心より
機与し當寺を安置し
本尊聖観音作者詳
此墓石側の盈虚より八必湿る
一尺斗の石の上に立せあり

忍原　同所四谷通りの小名あり傳へ云寛永十年癸酉武州
忍の城を松平豆州侯より賜ふ其頃ハ御番城なりしハ
勤番の面々御家人を江戸へ召帰さる此地より地所宅地を
賜ふ故に其頃ハ廣原ありし故に字を忍原と呼し
と也忍川と唱ふる地ハ四谷の通り傳馬町の西よりの
篠寺　同所塩町三丁目の左の側に有る四谷山長善寺也
とゝる禪林ゆゑ篠寺ハ其異名也天正三年乙亥の草創
ゆゑ開山ハ文叟憐学和尚本尊ハ釋迦如来脇士に普賢
文殊を傳へ云當寺ハ長善庵と呼ひ形ちゝ草庵
満地小篠のゝ繁茂せり寛永の比
大樹此邊御鷹狩のとき
厳命ありて篠寺とよばせ

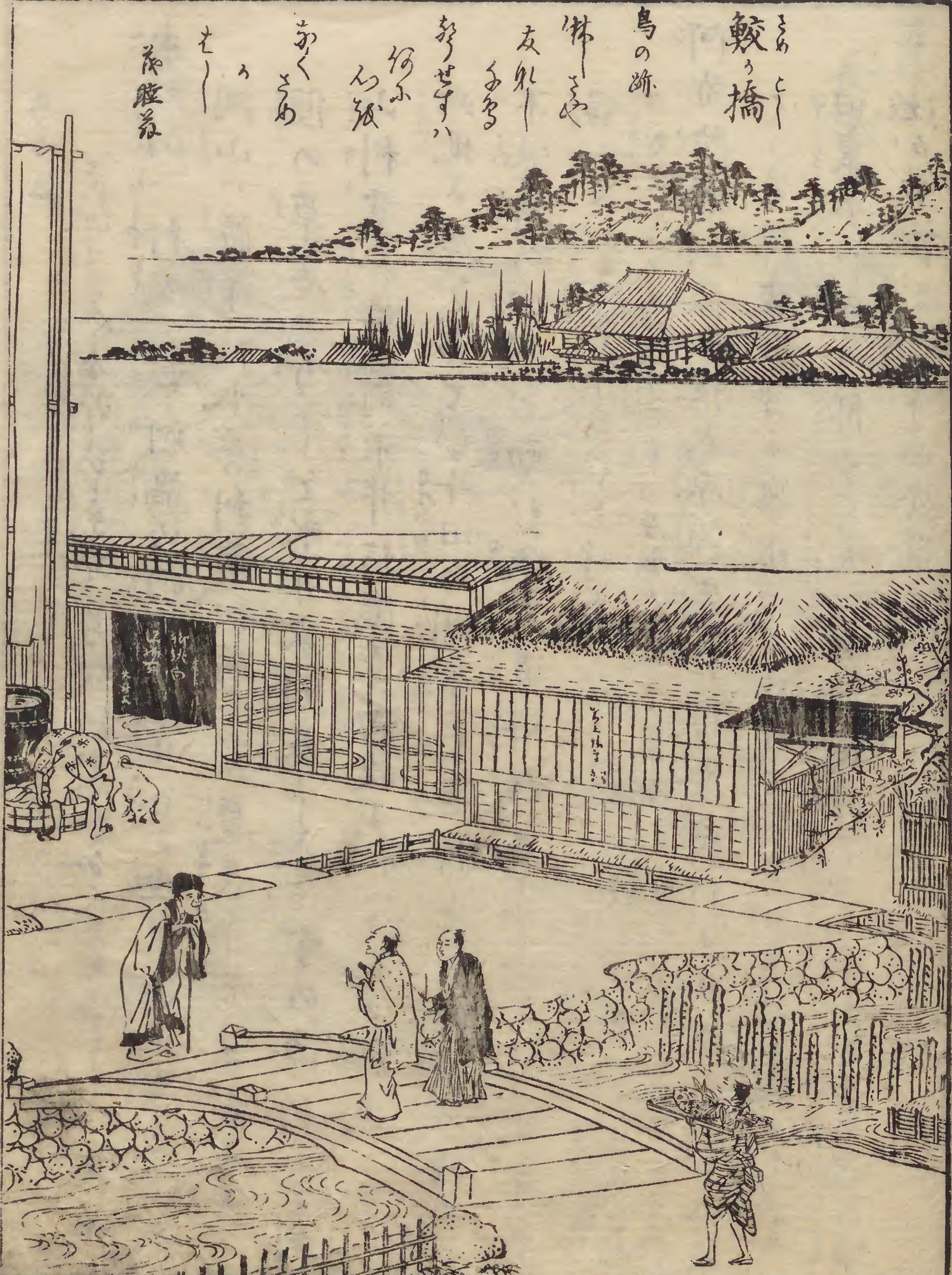
篠寺と号ハ四谷塩町の
通り道より左の傍ゆゑ
長善禪寺と号く昔
伝故鷹の頃尚寺ゆゑ
の庵室ゆゑ満庭小篠
のゝ繁茂
せしハ篠ちゝと
よばせあり
字とハ俗名
堂前方三尺
をゝりの小篠の
隈あり
其證を
永世に
標せり

あり此地を寺境よりあり後此名あり故よ是證として今と
堂前より方三尺斗の地ふ小篠の隈ひを總門の額よ笹寺と書
せしハ永平寺兼天和尚の筆なり
四谷大木戸（又大関戸と作る）甲州及ひ青梅への街道なり土俗云霞ヶ関
或ハ旭の関ハ云と是御入國の頃迄ハ此地の左右ハ谷あり
一筋道あり此開かて往還の人を乱問せしる近頃を江戸
より附出を駄賃馬の荷物送状あきを通さるもしとなり
今も猶駄賃馬の荷鞍かきをハ江戸宿又ハ荷問屋等孔手
形を出して通るる其遺風あり此故あやこと番屋ハ町の
持あれを突棒指朕鉞ふを飾置を是往古開のありし時の
遺風あるん又同所西の方ハ往還の道を横るして石橋ハ
下を右へ流る小溝を櫻川とよへり
内藤新宿　甲州街道の官驛あり（此地ハ旧内藤家の新宅の地ふ
慶町屋とある故よ名とす）

日本橋より高井土迫の行程凡四里餘ふ人馬共よ労
を依て元禄の頃此地の土人　官府ふ訴へて新よ驛舎を取立る
故ふ新宿の名有り然ととも故有りて享保の始廢亡せり
又明和九年壬辰再ひ公許を乞て驛舎を再興し今と繁
昌の地となる（此所より高井戸へ一里廿五町あり）追分といふハ同所甲州街道ハ
王子通及ひ青梅ふへの分道あれハなり
霞関山大宗寺　内藤新宿右側中程大木戸より二丁餘ふ有り
浄土宗ゆして縁山よ属を本尊ハ阿弥陀如来ふして恵心僧都の
作閻山念誉故心学玄和尚と号昔ハ多くある草菴なり
を寛永の頃内藤大和守重頼此地を賜ふ時此地よ
住る道心者あるを重頼若干の地を与へらるを廣豁ふ
以て大宗なりと云しハ重頼とりあへをさあんふハ寺号を大宗と
付とありしより号とすと當寺牌堂のかる弥陀善逝の像ハ

四谷大木戸
嵐雪

国立公文書館
National Archives of Japan



鎌倉佛師の作なりといへり（齊藤伊勢守二親菩提の為と記してありとぞ此齊藤といふハ代々鎌倉に仕へし齊藤禅門浄圓が裔）門の内に沙門正元坊が造立する所の銅像の地蔵あり（ありといへり江戸六地蔵の第二番目なり）

護本山天龍寺

同所追分より南の方甲州街道の左にあり済家の禅宗にして本尊千手観音開山ハ春屋和尚なり当寺其先ハ遠州の天龍川の辺にありしを後江戸に遷し牛込にありしが天和三年癸亥二月十六日火災にかゝり竟に此地に移さるといへり（延宝の江戸図に依て考ふるに今の牛込徒歩町の西馬場のある地其旧跡にして今も元天竜寺前といへり）境内に地蔵堂と観音堂有り又構の内に一里塚有り

鮫河橋

紀州公御中館の後西南の方坂の下を流るゝ小溝に架すると云今此辺の惣名となれり里諺に昔此地海につゞきたりしかバ鮫のあがりしより名とすといへり其証とするにたらん（或人云く天和二年公家の所記録に上一木村鮫が橋とありと云々然時ハ此辺も一木の内なりと知れし又佐目河に作る千駄ヶ谷寂光寺鐘の銘に鮫が村ともあり）

鳥の跡

茂睡

永固山一行院　駿河橋の西の方千日谷ゝ在て浄土宗ゆゑ開山ハ源蓮社本誉利覚和尚とゝ慶長年間草創也昔ハ僅の草庵なりしを永井家開基しゝ一宇の浄刹とゝ開山利覚和尚ハ則永井信濃守尚政ゝ仕へゝる剃髪しゝ此地ゝ庵をむすび千日の間常行念佛をゝ結願の時千日不退轉の回向を勤む依く道俗群集せしより千日寺ゝ唱へ又此所を千日谷と呼ゝなり　紫の一本とゝつる冊子ゝ曰谷と云ゝ永井家の屋敷ある故へ橋を渡る信濃原へ行谷を千今ハ信濃町とゝひ又永井原とも云と云ゝ

阿弥陀佛銅像　權太原浄家長禪寺境内ゝ在りゝる丈五尺ゝ丈ゝ佛像の脊ゝ應永十四年丁亥八月廿五日と彫付てあり旧東本願寺の佛ゆく大坂の御城内ゝありしを寛永の頃江戸ゝ移しゝ當寺ゝ安置せり

本社
拝殿
本堂
千歳谷
大神宮
寂光寺

吾妻堤　同所よりあり往古の街道の餘波なりとゝく堤の形今僅に残れり

（按に應永十四年ハ足利将軍義持の時世なり佛躯こゝかしこに穴あり蓋し昔兵乱の時に損せしの歟）

太神宮　同所御殿稍硝倉の西の方に有る相傳ふ萬治年間関東大に疫疾流行せ富士の根方より神送りこゝ此地に祭る然に其神輿の中に太神宮の御祓有り依て此地鎮護の為同所八幡宮の地に祠を建て是を勧請せ後此地に遊女の松　同所西に隣る天台宗寂光寺の境地に有り

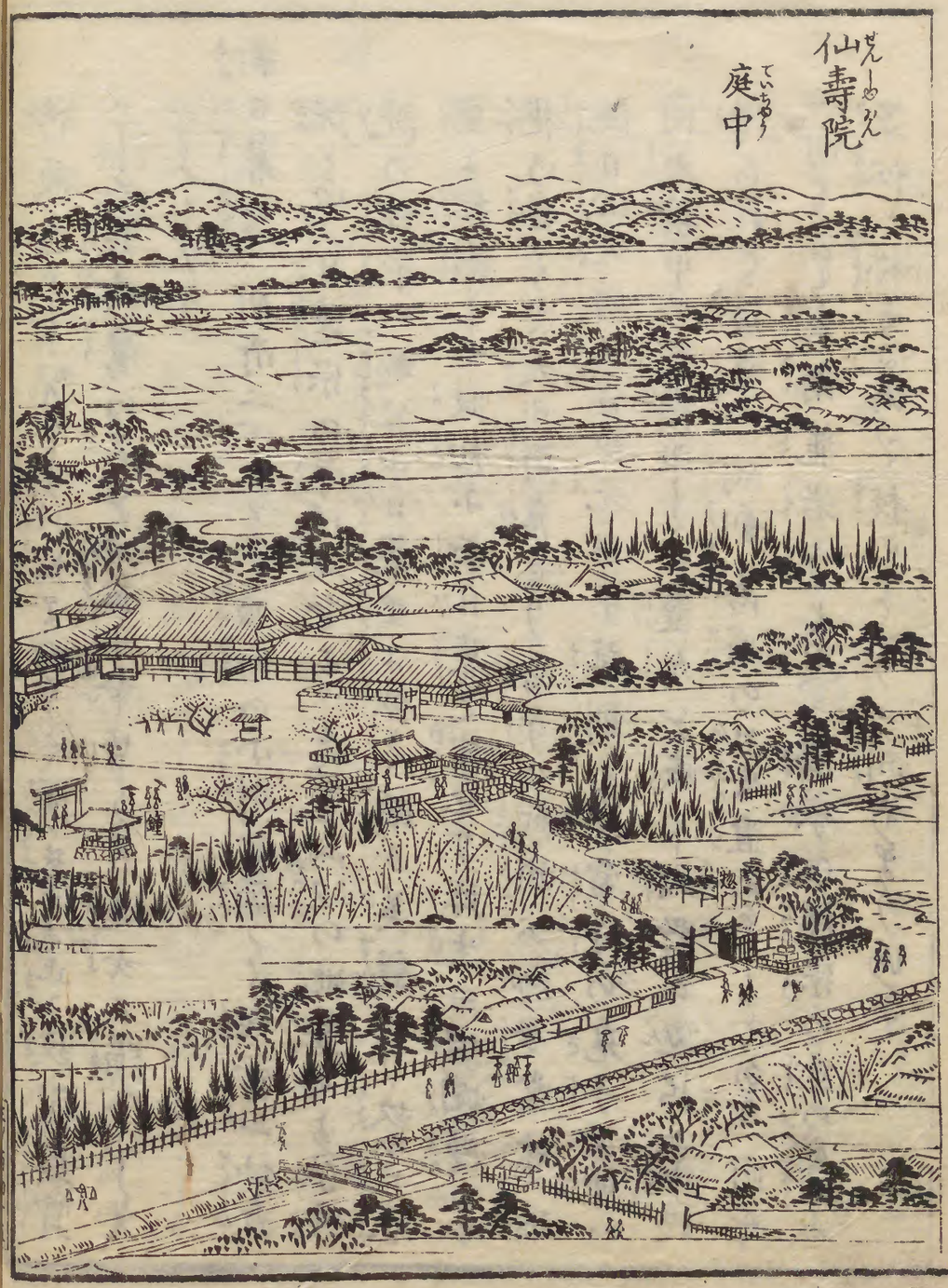
（神主ハ小川氏あり）

当寺昔ハ鶴岡の貝塚の地にありしを元禄の頃天台宗に改む今の開基ハ自證大僧都圓雄師なり　城郭御造営の時此地に相傳ふ此地ハ往古の奥州街道なりしを廣野の原野なりしを此松樹の鬱蒼として栄茂し遠く見え渡りし故に霞の松と号しを寛永の頃　大樹此地に御放鷹の時内鷹翁

御氣色あしくしを此松に御拳に止る故に御褒賞として其御鷹の名を此松に命せられ遊女と唱へしを

（遊女の松ハ）

新日暮里　同所二丁ばかり西南の小川を隔て法雲山仙寿院と号す日蓮宗の寺にて庭を構へ此辺の地勢をよひ寺院の林泉の趣谷中日暮里に似て頗る美観なり故に日暮里に相對して假初に新日暮と字せり弥生の頃爛漫なる花の盛ふハ大に群集せり当寺ハ紀州公御母堂養珠院日心大姉正保紀元甲申草創あり当寺の鬼子母神ハ同大姉甲の延嶺にして霊応を感し大野の辺に土中に得られて後当寺開創落成の日安置あるとなり同所一町ばかり東南龍岩寺と号る濟家の禅宗の寺の庭中に笠松と称するあり枝のさかり三間あまりひろ



国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

千駄ケ谷観音堂　寂光寺より二町ばかり西北の方にあり観
谷山聖輪寺と号る真言宗の寺に安置せ
本尊如意輪観音は當寺開山行基大士の彫像にして傳文
三尺五寸ある世俗目玉の観音と字しまする
往古慶長三年の春盗賊来る此観
るのれ双眼は精金なりと云傳へ鑿とりて去んとせしに冥罰ありて
自ら持る木の刄に貫まく死せり此地の橋氏某目のあたり是を
鑿歎し堂宇を再興す此あたり里民目玉の観音と字したてまつる
本尊縁起よりも菊岡沾涼翁の説に江戸寺院の中千有余歳を歴る
當寺と浅草寺と
縁起曰神亀二年乙丑行基大士東國遊化の頃同年初夏
に曾く此地に息ひ給ふ時に如意輪観世音傍の谷より
出現し給ひ大士に霊示あるに依て佛意に應じかこの
一古株を佛材とし給ふ此ガ来るを彫刻し給ふ故に観谷聖輪
の号ありとのへる
千駄ケ谷八幡宮　同所一丁許西にあり此辺の惣鎮守にて
例祭は九月廿七日なり別當は真言宗高雲山瑞圓寺
と号く
鈴懸松　前に松の老樹有て寛永の頃　大樹此地に放鷹の時
社記云往昔此地深林の中に時とし瑞雲現じ又
戌時碧空より白氣降て雲上に散て村民怪むに彼
林の下に至て忽然として白鳩数多西をさして飛されて
依て其霊瑞を称し小祠を営て名つけて鳩森と号し貞観
二年慈覚大師東國遊化の頃村民等大師に鳩森の神
躰を乞求む依て宇佐八幡宮城州鳩の嶺に移せ奉る
古を尋ぬに神功皇后應神天皇春日明神等の尊躰を
作て添て正八幡宮に崇め給ふ遥に後久寿年間渋谷
正俊領地に鎮座の産神なるを以て金王丸生前随身の
本尊恵心僧都の作の弥陀如来の像を本地佛とし社を

本堂

千駄谷
観音堂

国立公文書館
National Archives of Japan

造営して此地の生土神と称し奉りしより霊應ハ聡とし
日々新あり（南向亭云く当社の前路ハ鎌倉街道の旧跡ゆゑ今も北条家分限帳島津孫四郎領の中より鎌倉路と字せり青山の原宿より此地をへて大窪へかゝる所の中より千駄谷の名有り）

代々木野八幡宮　同西の方代々木野より此野も武蔵野の中なり祭禮ハ

九月廿三日より修行を別当ハ天台宗ゆゑ宝珠山福泉寺智妙院と号す（古ハ知明と作る）

相傳ふ当社ハ往古源頼家公の籏下なりしる近藤三郎是茂の家人荒井外記智明とゝなる者故ありて相州を退き此代々木野に蟄居し宗支と名を改め年月を送り八幡宮ハ本國の産土神ゝゝゆゑより常に信怠なし

然る建暦二年八月十五日の夜夢中に鶴ヶ岡八幡宮の霊尔あり〳〵宝珠の〇さ鏡を感得せ依て同九月廿三日此地を求め〳〵荊棘を拂ひ小祠を営むて初く鶴ヶ岡八幡宮を勧請しまるゝなり

懸松　同所の岡に在り傳へ云源義家朝臣奥州征伐の頃此地に陣を取此松樹の枝に鞍をかけらるゝより此名ありとい

（江戸鹿子に此題を頼朝卿とす冊子）

代太禍　甲州街道荻窪の立場より三丁あまり先の方松原堤泉廻り代太等の五箇村入合の辻より曲折する

の道路を横切り流る小川に架る禍より右に添て流る左に添て禍下に水流左右に繁れる禍上に土を覆ふ形顕ハ（此禍下を多摩川の上水と四谷内藤新宿迄一里廿五丁上石原と）

高井戸　此所に甲州街道に駅舎あり

（八二里一丁あり八王子より）此所ハ下高井戸中ゝて上高井戸ハ此所より西にあり小田原北条家の分限帳に大禍氏某の所領に無連高井堂とあり（無連ハ垂れ高井堂ハ此地のことい道與雅記に小堀兼の井田國雅記に無連の井）

和奇ハ第四巻塩魚井の条下に詳なり

国立公文書館
National Archives of Japan

代太橋

鬼子母神　下高井戸の道清月山覚蔵寺とゝなる日蓮宗の寺に安置す鬼子母神の霊像ハ宗祖大士の作ゆゑ佛像の脊ゆ建長五年癸丑八月八日日蓮刻之とそ

縁起曰文永八年九月十二日日蓮大士相州龍口より北へ誘ひ伏さんとせし時一人の老女あり胡麻の餅を供せり大士歓喜のあまり建長五年の夏始て妙法蓮華経の首題を唱へ始めゆ附廣宣流布の形如の尊像を造り守護の鬼子母神の霊像を彼老女に授ける此老女ハ農民なり則老女ハ商ゆゑ家よ繁盛福田村とのゝ地ゆ安田武左衛門と云ふ人ありて信心深く此霊像を信仰ス時ハ享保十八年癸丑五月此霊像俗家の汚ゆ穢るゝを旨とし依當寺第十世の住僧日曜師鎌倉杉葉谷妙法寺ゆ在せし頃彼武左衛門ゆ此霊像を携へ来り日曜師ゆ附嘱せり然ゆ日曜師當寺の破壊を歎き寺院再興の願ゆ後住せし頃當寺へ迎へ云

布多里　今所謂布田邑是なり　布田或布多ゆ作る此地布多天神社所制札ゆゑ補陀郷とあり

此地ハ甲州街道ゆ上下と分れ　石原上下國領と合て布田五宿と称ス

武蔵國風土記曰　多磨郡

爾布田或新田公領三百七十二束三字田假粟二百十三丸三字田

尓布田　貢蔵蔵諸草菜及禽魚等出鮎鮒鮒等云云

和名類聚抄曰
武蔵國　多磨郡　新田尓布多云云
按ふ風土記ふ多の用布田及ひ和名抄ふ載る所の新田共ふ此地の
土記ふ尓布田川の名あれとも今考へ尓布多を布田と唱へ又風
土記を云なるへし後世上略して

万葉

多麻河泊尓左良須氐豆久利佐良左良尓奈仁
曽許能兒乃巳許太可奈之伎

家集

多作さらす栲衾の朝寝をつるきとあぬ玉河の里　定家

按ふ万葉集多磨を多麻ふ作る布田も又古ハ布多とす往古麻の布を
多く産せしふより假字ふハあれとも意を含て麻ゆ作る遠ふ當
國の府ハ此地より西南ふ当る遠ふ毎國朝廷へ調布を作り
を貢せしふ國史等ふ詳なり風土記多麻川の条下ふ里人調布を作り
内務省ふ納とあり然るに此國ふ産するのを
集めて此川辺ふ晒ゆへ此川の水流を考へ府ふ中の辺より水源ハ尓の水流
依て多麻川の水流を考へ府ふ近きを尓潮の盛衰あり調布ふ便と
多く布田より下流ハ鄰海ふ広狭水流の術ふ実ふ布と
よろしふ乃ふよろしと忘ふる故ふ合せ考へ此布田の辺ハ実ふ
さらす乃ふよろしと忘ふる故ふ合せ考へ此辺ハ実ふ又云毎
歳三月の頃より七八月ふ至り男女ふ童児等ふ
其形勢及ひ唄ひ物の詞等も調布の事ふ関ふ
唄ひ物ふ歩行のあり

布多天神社

此川の流のすハとなりて布を流てハ海まで

又云

あのゝ浦ハ紅屋の子ハ[illegible]もかなしき紅屋の子ハ[illegible]

又云

[illegible]の鶴ハ二三羽まひ日ひ[illegible]

[illegible]

此唄ひの古をかりひあハ[illegible]足[illegible]附て云此地ハ西有中の間ハ深屋邑と称する地あり是も古伊[illegible]の家多くありて調布を深[illegible]

深敷別當安房上野の局ハ何分[illegible]東鑑建久六年七月廿八日の条下ハ武蔵國[illegible]

[illegible]此辺の[illegible]此名あり[illegible]東鑑[illegible]別當の[illegible]ハ近頃局[illegible]

[illegible]と訛す同書ハ今按ハ俗ハ手作布の三字を用ゆると云く調布を和名抄ハ豆岐の沼能とあり[illegible]貢ハ布の[illegible]

布多天神社　上布多驛舎の辺より右の方四丁[illegible]あり別當ハ真言宗ゆゑ廣福山采法寺と号ス浅尾王禅寺ハ廢す祭禮を隔年九月二十五日ハ修ス当社祭神詳ならず今菅神を相殿に勧請ス二座とス当社昔ハ多磨川の岸頭ハ洪水の難ハ羅るの後今の地へ迁す[illegible]

延喜式神名記曰　武蔵國多磨郡

布田天神社云云

虎柏神社　同所北の方十丁計を隔て佐須村あり佐須ハ古[illegible]当社の神[illegible]地ハ元天神と称し小祠を存せりと[illegible]

[illegible]の地名を呼ぶ今ハ[illegible]

[illegible]の遠裔此地の里[illegible]

[illegible]

[illegible]九月十三日を以て祭祀の辰とす

武蔵國風土記曰　武蔵國多磨郡伯江郷

虎柏神社　圭田七十三束　所祭大歳御祖神也

崇峻天皇二年己酉八月始祭事有之云云

延喜式神名記曰　武蔵國多磨郡

虎柏神社云云

按ふ深大寺縁起ハ満功上人の祖母の名の虎と祖父の住し柏野北里の名ハ[illegible]是非を[illegible]柏字の古ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

青渭社
虎伯社

如来の本佛を安置す作者未詳本堂の向拜に掲るの虎伯山の三大字ハ筆者を忘る

藥師堂　本堂の前右の方なり藥師佛ハ立像御長一尺行基大士の彫造なりと云へり佛龕の内に弘法大師の真跡の般若心経を収む此堂宇二百有餘年を経て前ハ此地より東南の方三四十歩を隔て耕田の中にあり今ハ古茱萸堂と其頃屢賊の為に佛器の類ひを奪ひ去れりハ終に祇園寺の境内に迁せしとなり今茱萸堂より一丁程南に茱萸堂面と字して一反六畝の除地あり鎌倉時世より前に附せるの地なるよし土人傳へ

伯江入道旧館地　祇園寺より艮の方六七町を隔て二百歩あまりの岡なり空堀の形なと嚴然として残り此地に入道崇むる所の稲荷の小祠あり土人里の稲荷と称す祠前拝の老樹一株六畝にあるもの存せり

東鑑に寿元二年戊辰七月十五日伯江入道西恵黨五十余人を率ひ武蔵國威光寺領内に乱入し田を刈狼藉に及ぶ由院主の僧圓海

訛なるなるを挙こり刊本伯江ハ作るハ伯江を誤りしなるべし又云
こゝに伯江入道と云伝へるも此増西のことを云へるなり又同書ハ建久元年庚戌
十一月七日二品入落供奉の人名の内ハ駿江平四郎と云名を注す
按ス 償日本紀ハ仁明天皇の承和十一年甲子五月武蔵國多磨郡伯江
郷より郎婦を出すことを載られたり刊本猪江ハ作るハ伯を誤れるなり
和名類聚抄ハ同武蔵國風土記残編ハ同郡の郷名ハ伯江と云ふ地名を知らず
地を今ハ佐須村と称ふ多磨川の北字奈根木の隣に訛なるなり此和駒井の北条家限帳ハ多波川の北
呼ふ地あり恐らくハ伯江の郷の内なり駒井の旧地なるべし
駒井邑と
野井水郷太田新六郎知久の内ハ駒井邑と

青渭神社

虎柏神社より北の方深大寺村の中にあり土人
此地を字して天神ヶ谷戸と云ふ祭神詳ならず世
青波天神と称せり相伝ふ古ハ社前ハ湖水ありしを
青波の称あり社前槻の老樹あり数百餘霜を経る
なるべし

延喜式神名帳曰 武蔵國多磨郡

青渭神社云云

按ス神名帳ハ青渭と云ふを今本阿遠伊と訓ス土人云古當社の前ハ湖
水満なりし故ハ青波の称あり今青波ハ作るを阿遠葉と訓ずハ
誤なり同巻青沼明神の条下と参照すべし

青渭堤　青渭神社の辺あり古ハ青渭の湖水湛へ渓世堤を切開て水を乾し耕田とあすといへり故に今此彼所ハ六七歩或ハ十歩よりあまれる塚のめぐりの残り存して草樹繁茂せるハ其堤の旧跡ありといふ

浮岳山深大寺　昌樂院と号ス深大寺邑ニあり里と号ぜ　此所も佐須村と云　昔ハ柏野の大古ハ法相宗ありしを恵亮和尚以来天台宗に改むかるハ宝冠の阿弥陀如来恵心僧都の作ありといふ当寺を福満童子の宿願ゆへ天平五年癸酉に草創せるなれ佛域なり　日本年代配合鈔に白天平勝宝二年庚寅深大寺建立云云　四十七代　廣帝御宇に勅願所と定られしより平城清和両朝も又勅願所と

なりしとなり

元三大師堂　本堂の前左に傍てあり寺記に云應和四年慈恵大師叡山より来て自彫刻あり霊像なり　慈恵大和尚と恵心僧都とをひとつゆへ武蔵國深大寺ハ代々の帝勅願の地なり永く此霊像を迎ひ関東の群生を化益せハとて武蔵二

年の春こゝに安置ありと亦来霊應の十八日ハ別業護摩供を修行あるゆへ近郷の人群参せり　此日門前に市を立る

降魔尊像　先の霊像に共に叡山当寺に迂座　五大なる石　大師堂の北の中に際清泉の水旱魃に減ず　土人旱魃の年ハ此不来ル此水を汲干んとすれ霖雨あり　要石　同し泉水の中島稲荷の宮の傍にあり昔此山崖あと崩れ屋なりしハ頭の寺主が念願を建て要石と号く云　鐘楼　大師堂の後の山の上にあり

武蔵國多東郡深大寺

奉治鋳槌鐘　長四尺三寸　口二尺三寸

右伏以當山蒲牢開基以来革更其數不一或雖治鋳有破裂而無声或雖討得有薄界而不鳴爰緇素數輩競勤力廻命息氏遂鋳鴻鐘當知三宝垂感諸天降臨仰願皇風永煽佛日弥明仰藍鎮静法輪常轉更乞諸檀施主二世善願一切成就仍昭銘功德其辭曰

山名浮岳　寺号深大　百千万劫　定期滅罪　生善　令人正覚

永和二年丙辰八月十五日　大工小城守宗光

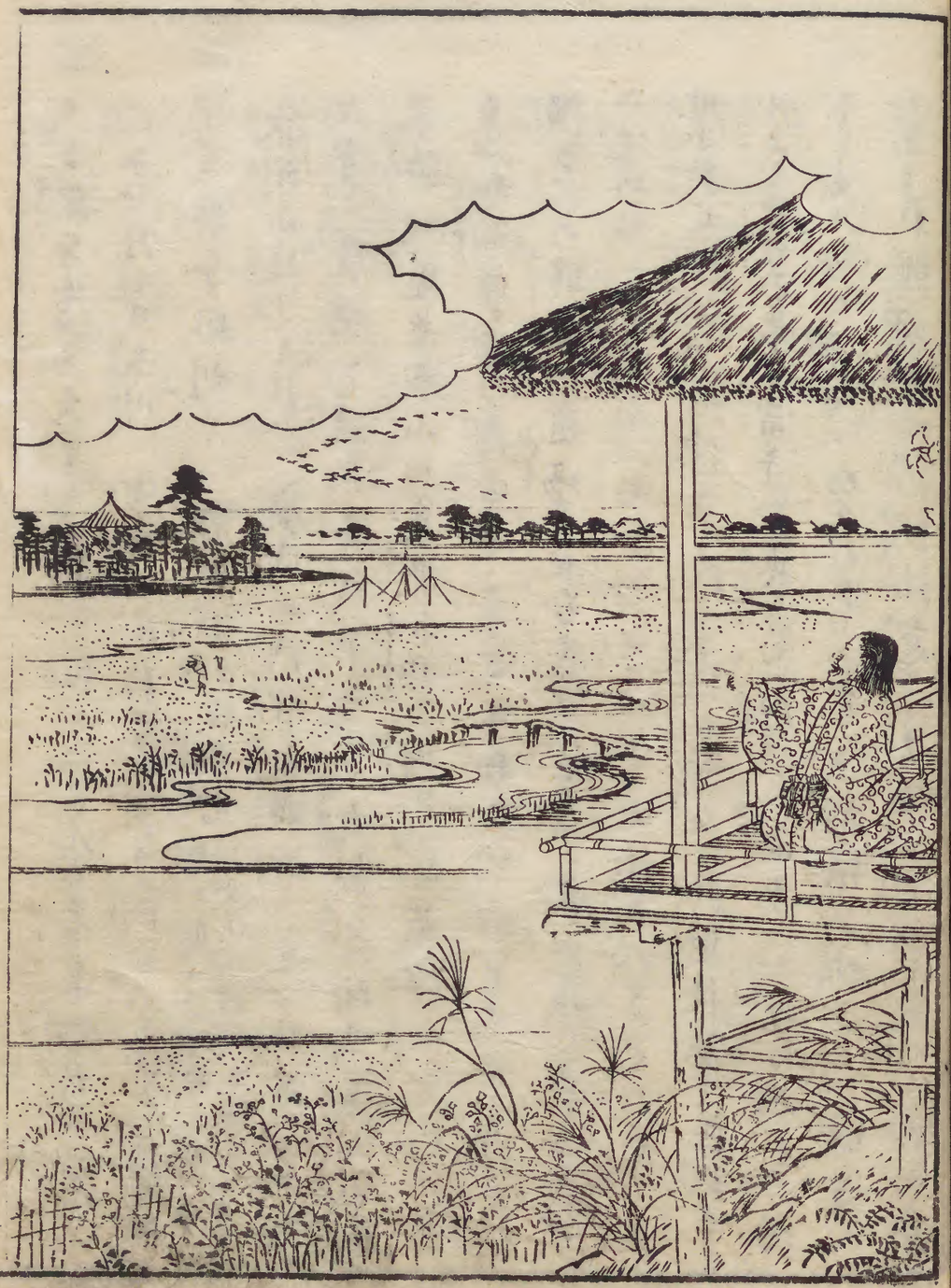
新鑄鬼鐘　声形卓犖　驚起塵夢　消除煩濁

亀島辨財天祠　別當前大行事院主法印権少僧都辨運　門前左の方の池の中島にあり　大僧正法印大和尚位守慧　縁起に所謂福満童子が貧窮して弥せ霊亀をして後小満功上人船天に崇られしと云

福法大師
山王王子

深大寺
鐘
五大そうの石
本堂
軍荘
大師堂
吉祥天

毘沙門天吉祥天社　昔八各別社にて後新天の相殿に合祭すと
福満童子ハ毘沙門天の化身吉祥天ハ影起ふ
深砂大王社　大門並木に相對す　縁起曰天平五年癸酉満功上人此地に當社を
宮殿深大の二字を採く寺号とし一宇を草創
東照大権現宮及ひ八幡　深砂大王影向池　社の北にあり往古深砂
八剱権現と相殿とす　大王影向ありし旧跡と
云伝へ此中一ツの霊石あり
剱立石　同し池の中にあり往古惠亮和尚當國に勝地を求めらるんとし
當國の國分寺に至り不動の利剱を虚空に擲ちこの地に
上ふ立しとあり此石を剱此石
福満童子祠　深砂大王の祠前　仁王塚　同所
社前
此号ありといひ伝へ　右の方にあり
の道を一丁半ばかり西へ登る坂を塔坂とよぶ往古塔
二王塚と字す相伝へ昔何某の一子當寺二王門の辺に遊ひてあり
姿を見失ひ人一発ろ山大に騒動す　児を呑ふ當寺二王門の二王るの辰に
其児の名ふ着せる所の衣服残土中に埋やうしより二王塚の号ありと
王の像とこころもち門を破却し
縁起曰　聖武天皇の御宇武蔵國多磨郡柏野村に獵師あり
柏野村今佐須村　名を右近とよぶ年頃山に入水に臨むて殺生を業とす
ある時ふもとの女来る妻とする名を虎とよぶ此妻
常に夫をいましめて殺生をとゝむ右近ハ妻のいふに隨ひ竟に
狩漁を止む平後一人の娘をもうけつるかつるに大くるん
早く生長のもとり然に福満と唱ふる童子ありて此娘に逢初に
これハ父母大に怒かとるを賤しき人にあらせんとす本意なを
とて二人の中をさけ娘をハ此里の池の中島に家を営ふに
居しむ福満ハ日毎に岸に至て是を歎くとのへ昔
ところの玄牛三蔵渡天の時流砂川に至て佛を念せしに
深砂王現ぜ川を渉しの人を思ひて一心に念しくれハ
一の霊亀浮ミ出福満を甲に乗て島に至り娘にあふを
得とり父母後に此を聞て神明の冥助あるを知て随喜
して娘を福満に妻あらせくれハ竟に一人の男子をまうけ父母の
願ゆるして此児出家し満功上人とのみ平度をとこしふ渡唐大乗
法相の旨を伝へて帰朝し天平五年癸酉父の本誓にとり
深砂大王の社を建立し當寺を創せ平時神霊水中に出岩



深大寺蕎麥

尚寺の名産
中にて
味ひ格
佳なり
都下に
称して
深大寺
蕎麥
とす

上より現ぜるゝ容を摸しとゝめんとゝゝゝ衣木なし
然ゝ七月七日玉川ゝ靈木の流れ漂ゝあり則是をもく藥師
佛三軸を彫刻し一軸を當社ゝ納む（餘二軸ハ下野國日光山及び出羽國ゝあり）此由
叡聞ゝ達しくれハ　廢帝の御宇勅願所ゝ定られ浮岳山深
大寺と震翰を灑き扁額をゝゝゝ又貞觀年間武藏國司藏
宗卿叛逆を叡山の惠亮和尚ゝ仰く乱賊降伏を祈らゝゝ
ゝゝ和尚當國の國分寺ゝ至て不動の利劍を虛空ゝ投ゝ
隕ゝ和の勝地を道場とせんと誓ひゝゝゝ遥ゝ飛て當寺井泉
の辺の石上ゝ隕ぬ此石を劍立の石と云依五大ゝを勸請し此
地ゝ於て秘法を修練せられしゝ行力空しく逆徒悉く降伏せり
依叡感のあり當寺を惠亮ゝ賜ひ此所ゝて七邑の地を寄附
なしゝゝゝ（是を深大寺の七邑と唱ふ）ちなみゝゝゝ法相宗を摂し合宗ゝひの
ためられ護國安民の秘法怠るなく関東第一の密場と

なるとり（昔ハ十二字の塔頭ありて大伽藍ゝ度くの兵火ゝ焼ひく今ハ昔ゝ違へり）
ゝく灰燼とありしを世田谷の吉良家深く信しく再ひ
堂宇を営ゝ波平行安の刀を寄附す（無銘長四尺五寸あり）
後野火の災に罹

繪巻物并詞書二巻　参議右中將藤原公尹卿筆

抑當寺ハ関東融通念佛最初弘通の道場ゝして慈眼
大師　大猷公の　上聞ゝ達しまり融通念佛百遍を
受させ賜ひ添も結縁の名帳ゝ御諱を記させ給ひ
當寺融通念佛の縁起ゝ詳なり（此念佛ハ大原の良忍上人現ゝ如来の示教を弘通しゝゝ
ゝ此法や或ハ十返百返乃至千返万返を日課とし我唱ゝ私の称名の功德を
他の人のゝとし他の人の唱ゝ私の称名をハ自らの為とし互ゝ融通し自他
平等ゝ修ゝ私の念仏の結縁ゝ功德廣大無辺ゝして由緣起ゝ昔鞍馬山の毘沙門
天王もこの念仏の結縁ゝ入ゝ給ひしゝあり）

深大寺蕎麥

當寺の名産とす題を産まる地裏の前以ゝ畑わ
真とゝとの甚少し今近隣の村里より産まるものゝ都下ゝ称しく佳品とす然れ
ども此名を詩ら
難波田彈正城址　深大寺大門松列樹の東の方の岡を云土人そ

城山と呼ぶ今ハ麥畑とあるとゝも此所彼所ハ湟池の形残り此地ハ往古　清和帝の御宇藏宗卿武藏國司

くらし時くゝふ住せられくらしし旧館の跡ハ〻〻天文の頃上杉

朝定の家臣難波田彈正忠廣宗松山の城の出張とゝくゝふ

城廓を構へくらしくゝ

（條五代記曰く上杉修理太夫朝定の嫡男五郎朝定生年十三歳ゆゝして家を継武州深大寺といふる古城を再興し北条氏綱ハ向ひ弓矢の企ありその旧の所ハ大れ難波田あるくらしくゝを北条方ハ山中を猶孫子ゝ

くゝ条下ハ此軍ハ天文六年ヒ月廿日なり

ゝせ一首ハかくくゝくゝくゝくゝ

と佛偈躰ハよくくゝしよくれとてくゝたくゝくゝ

武士ゝくゝくゝくゝ

難波田もさすがよくくゝ

ゝを重くあくしゝくゝを難波田もさすがよくくゝ

我作りの古今集の哥をとりあつせく返答あくしくゝ弱のあくしくゝ

ゝ主君朝定を館に残し置難波田くゝれハ松山ハ攻せくゝ

混もくゝくゝ身を全くくゝくゝくゝを忠臣の法といふあり作者とのひ功者とひ

くゝくゝくゝ勇者くゝくゝくゝくゝ云く

深大寺城跡　深大寺佛堂の後の方の山續ゆゝて千間六七丁を

隔くゝ空堀或ハ柵門抔あくくゝと覚くゝ形今猶嚴然くゝ

北条五代記ハ大永四年の頃氏綱江戸の城を襲ふ上杉

匠作ハ〻あさ河越の城ハ引籠り十余年の春秋を送り迎へ

ぬ〻ようゝ例くゝす心ゝをくゝのひて天文六年の卯月下旬

世を早く去く嫡男五郎朝定生年十三歳ゆゝて家を継

ゆひぬていれハ七〻ヶ日の服忌くゝ経くゝて道をあくくゝ兵を

起し深大寺くゝ古城を再興し氏綱へ向て引矢の企くゝ

なりとあるハ則此和のこと

醫王山國分寺　寂勝院と号國分寺村ゝあり府中より北の

方十八町を隔て當寺ハ天平年間行基菩薩草創ゝる所ハ

聖武天王の勅願所なり中興開山を教心阿闍梨と号

今ハ新義の真言宗なり

藥師堂　本尊藥師如来　開山士日光月光十二神將の像共ゝ

額　金光明四天王護國之寺　深見玄岱筆

国立公文書館
National Archives of Japan

國分寺伽藍旧跡

二王門　石階の中腹にあり金剛密迹の二像を置作者未詳堂林ハ古のごとくして舊地ハ半丁ばかり南にあり

續日本紀聖武紀曰　天平十九年十一月己卯詔天下諸國國別令造金光明寺法華寺下略

延喜式第二十六巻曰　東國分寺料五万束藥師寺料四万二十束梵釋四王料七千七百束云云

東鑑曰　建久五年十一月二十七日　近國一宮并國分寺可修復破壞之旨被仰下云云

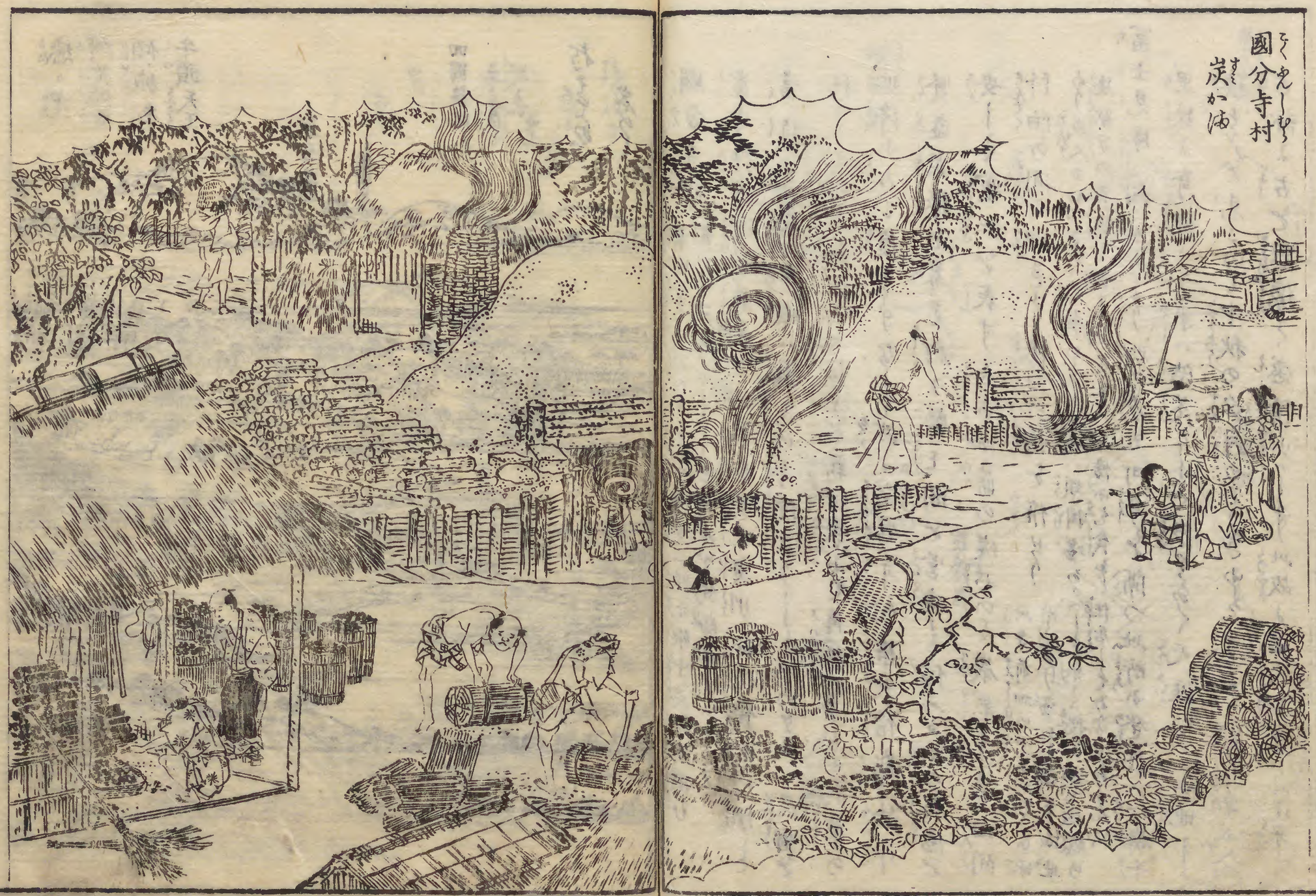
同書曰　寛喜三年五月五日　任綸旨於國分寺可轉讀最勝王經之由被仰下開東御分國々行然奉行之云云

たのもしき世を祈まとて宮を分てる寺の影　称名院

二王門旧跡　寺前半町ばかりを隔て畑の中に礎石を存せり南の方の層塔旧跡　國分寺の東南半丁ばかりを隔て草樹繁茂せり往古塔の中真を水をたゝへ内に水をたゝへ六角に礎を居の中に方九尺ばかり石ゆゝ豎ゝ堅穴あり中に径三尺ばかり石ゆゝ豎ゝ

古瓦　二王門旧跡の辺り数百歩の間往の古瓦の破碎せるものあり皆堅密印せり想像形全く文様奇ゆゝ國分寺の古大伽藍の地ゆゝ古瓦の中武蔵國郡の名

國分寺碑 藥師堂の前右の方より碑文ハ服元雄中英先生撰む
割ハ河保壽ふ當寺法印賢盛建ふ
當寺往古源頼義朝臣同義家朝臣奥州征伐發向の頃と
當時八八幡ふ願ハ盛大の寺院なりしと云あるこの星霜を
経て元弘の兵火ふ亡ひしを新田家ふて再興ありしふ兵革の
世終ふ古よ復せすなし然よ宝暦年間権大僧都法印
賢盛衆縁を募て新よ醫王閣を営建し仏ゝる所の灵像を
安しく靈跡を表す今古伽藍の礎石のこ厳然として田間
阡陌の間よ埋もれ懐旧の情を催せり
ある或人云ハ乞食場ハ頭掛場と依て按よ古へ合戦の此寺前畑の中ふ塚字ふ地
後敵方の首級を掛し地なりと
富士見塚 國分寺より西の方五町斗を隔つ此所ふ登れハ一瞬千
里殊よ奇観なり東ハ浩茫として限りなく天涯つゝふ地つ
接すと見るのこ中秋の夕月のあけきゆて草より出草ふ入の
古詠よ古を想像て感情少なすす此故よ幽人騒客こゝふ来



国立公文書館
National Archives of Japan

愈ノ窪
阿弥陀堂
傾城松
牛頭天王
四國雜記
傾城松

道真淮后

遊賞せり　三丈五十歩ばかりを隔てゝ憑う窪村の地北へ

阿弥陀坂　冨士見塚より十三町あまりを隔てゝ憑う窪村の地北へ向ひて下る坂を云此坂の左より傍らに岡に草庵あり土人阿弥陀堂と称す木像の阿弥陀如来を安置す（延享四年鶴心と云僧此草庵の廃を興す）土人云古の安置ハ銅像にして今府中六所宮の社地にあるとの見なりとおもふ往古畠山左司次郎重忠此地憑う窪の驛舍に出陣せる然る後ものあるて重忠討死しける由の事なりしを実とし難の遊君歎きのあまり終に自殺しなりしを後重忠聞あれと彼遊君の節操を感し菩提の為に此阿弥陀堂建立し鋳を以て弥陀如来の像を鋳て安置せしとなり（因に云此地に道場畑と字する地あり土人云むかし此地に無量山道成寺と号する寺院あり）阿弥陀堂も境内にあり（又云今府中六所宮の社地に遊君の菩提のため建立せる仏像の弥陀仏ハ重忠愛せし仏像なり）

戀う窪　同所坂より下の低き地をいう古へ東奥北越ほの國より京師及び鎌倉へ至るの驛路にて項ハ遊女の家居なりしとあり（此地に牛頭天王の叢祠あり竹林の中に四ツ地あるを古への北國街道の旧址なりといふ）

四國雑記　恋う窪

打ちそぬ袖のなみだに恋う窪今ぞ思ひ知る道奥雀后

傾城う松　同所艮の方八幡宮の社地にあり同し程の古松二株雙立せり土人重忠う愛せし遊君の塚印の松ありと云伝へ然れとも社地なるものゝ此八幡宮の神樹なるべし

武蔵野　南ハ多磨川北ハ荒川東ハ隅田川西ハ大嶽秩父根を限りとして多磨橘樹都筑荏原豊島足立新座高麗比企入間等の十郡を跨る草より出て草に入又草の枕に旅寝して日数を忘れ向へる里の遥なり抔代の歌人袂をしぼりし

御入國の頃より昔ゆ引く十萬戸の炊煙紫霞と棚引く
僅よ平山路の殘も兼應より事保ゆ至る四度迫新田
開發あり往古の風光これ〆されと月夜
狹山ゆ登り四隣を顧望るに曠野蒼茫千里無限
往古の狀を想像まくふたもり（狹山ハ第四卷の中ゆ入る）

萬葉十四東歌

武蔵野ノ爾宇良敝へ可多也伎麻左氐爾毛乃良奴伎
美我名宇良爾低爾家里
武蔵野乃乎具奇我吉藝志多知和可禮伊爾之與
比欲利世呂爾安波奈布與
古非思家波素氐毛布良武乎牟射志野乃宇家良
我波奈乃伊呂爾豆奈由米
伊可爾思氐古非波可伊毛爾武蔵野乃宇家良我
波奈乃伊呂爾低受安良牟
武藏野乃久佐波母呂武吉可毛可久母伎美我麻
爾末爾吾者余利爾思乎
和我世故乎安打可母伊波武牟射志野乃宇家良
我波奈乃登吉奈伎母能乎

新古今
物思ふ事もひとつの事なれとかくのみ思ふ月を
續古今
むさし野の八月の入るさ山の尾ゆ出ふかるる月
玉葉
旅人の行ふ道ふ雲ふ分けく乃わ末ひるむさしの原
續千載
むさし野ハ秋ハ物思事も私義の物思ふ者かりそ
續後拾遺
まくもまくふハ物もむさし野ゆ人の事ハ仆ま
新續古今
むさしのゆ月の出ぬみれくゆ妻むむさしの原
千五百番哥合
むさしの草ハ秋ハ物思ふ人ハ秋の夕ハ
摂政大政大臣
通方
右大臣
家隆
定家
雅経

夫木　花のえも義もし妻もこれあん一ぬ業のむさしの原　為實

田國雜記　むさし野ゆく残月をうらく

こゝをしら　こゝ時のこと　添ふる野、う郷　道與准后

桂林集　むさし野ゆく長陣せし時をとき　直朝

むさしの八月清もええん時る数月をえ月ゆ嘆ん

武蔵野記行　天延年仲秋の頃むさしをくんと出て月

ひ八ん人くあまくもつれて山ゆ

しく花八ん人と中略　女郎花の影ゆ中ゆ

花の数くあそれをりうを記しそるの

むさし地とうつをさして分入ん行ゆくも果しかれハ　氏康

いかしのえのもうもつくれハなり

むくさのひとゆ多ゆ

武蔵野の古奇ハ萬葉集をたの一ゆ　同

の集ゆあまくひもとも枚挙まの代くの撰集を餘奇合ひ家く

酸ゆをを記しそるの　其

武蔵野翁　翁ハ其郷姓話らすたゝ郁芳門院の一薦士と

云院崩るの後齢二十九ゆ世を避て諸國を遊歴し

此ゆ止る菴を結ひ月ゆ卧して武蔵野の廣を愛を六十年を

經く西行法師ゆ邂逅を一宿を投しく通宵古を談し一涙を

緇衲ゆ餞を曉ゆ迫て別る　續扶桑隠逸傳の文意

西行物語　さしてのつくををすもあれハ月の

むさしくゆ小萩ゆ

ゆ八ん人野ハ此ゆ

五六町

入て

萩ゆ

の秋の

の

ハ

を

ハ

ハ

ハ

[illegible]

紫草　武蔵野の景物なり　和名類聚抄無良散岐と訓す

紫ハ最上の色ゆゑに古歌ゆゑ兎の色又位の色抔詠あるせ

ゆゑ根を砕く深き所ふ紫の根の根摺ともいひ女ふ

比しとハ縁の色抔もいひ江戸の紫染ハ最絶妙ゆゑ他邦ふ

比類なし故ふ江戸むらさきの称あり

延喜式　内蔵寮式曰　紫草二萬二百斤武蔵國

同　書曰　民部省式曰　紫草三千三百斤云云

古今

紫の一本ゆふ武蔵野の草ハ

後撰

[illegible]

新勅撰　武蔵野の草を摘初し紫の色ハ

同

九条右大臣

續古今

[illegible]

小町

迯水　武蔵野の景物なり　里老云く仲秋の末霖雨の頃此

野を行ふ四なるゆふ水湛へく通ひ難し此ふ除彼ふ

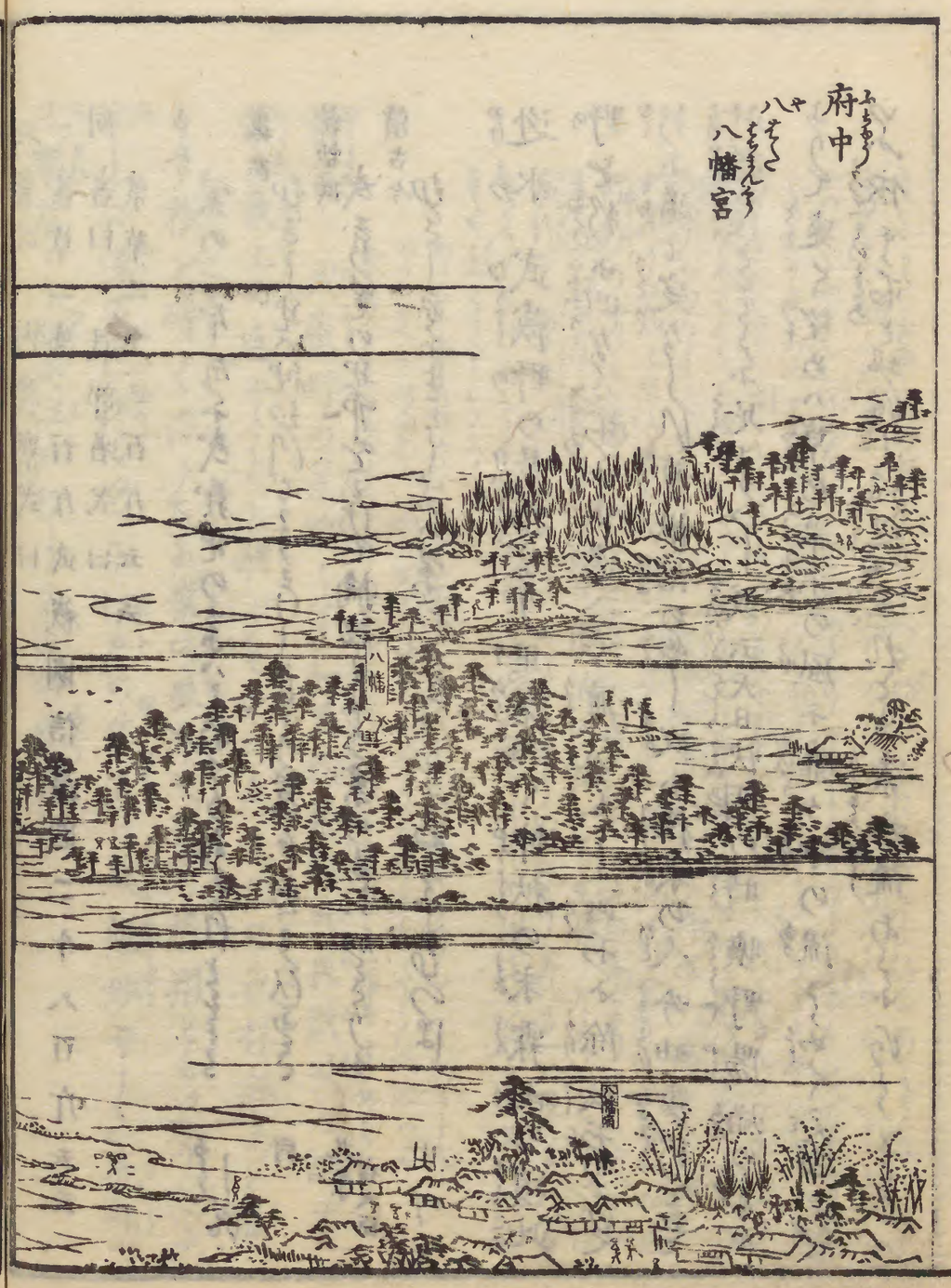
行ふ道も定なし草根沼の故ふ往来の人吟味歩行を云と

此説信とすふ足さるし　或云天日快明の時曠野陽焔の

ゆゑ遠く望めハ草の葉赤の風ふ靡く水の流るゆくゑ

ゆゑ依て和と地[illegible]辺へ至れとも素水流あるふ

国立公文書館
National Archives of Japan



国立公文書館
National Archives of Japan

終ハ玉水の原ハ至るを故ハ此名ありといふ

夫木　あるかふありといふある逢ふ所ありとも　俊頼

同　むさしの野の草葉かれ行ハ逢ふ所ありとも

性靈集詠陽燄喻　遥々春日風光動陽燄紛々曠野飛翠體空々無所有狂兒迷渴逐悠歸遠而似水近

唐　陸勲志怪錄曰　水疾走趣之轉近轉滅走馬流川皆謂陽炎狀貌也

遥望見人馬往來如在水中乃至前不見水

周　慶風土記曰　廣野中陽燄望之如波濤奔馬謂之水影此天地之氣絪縕盪滿回薄変幻何往不有

按ハ性靈集を餘前ハ載ハ書いつも陽燄の書きのまゝ先の説ハ悉く民居又ハ町園ハ沿草して例とし今ハ悉く民居ハ沿草して例とし

武藏野の勝槩　名而多　殊更ハ高く凡

東西十三里南北十里ありあんん白記ハ四方八百里に餘る

と書き筆のまゝひと云へ〻天正以来江戸の地を以て御城営

ハ定ハ定れり廣莫の原野も田ハ鋤畑ハ耕し尾花ハ浪も

民家林藪ハ沿草して方ハ一を残せるを

新田開発ハより下宿とハ地の傍ハ原野の形勢を残せ頃北武藏野

秋の頃出情を考へハ遊へ種の花を愛出の音を賞せんと

程江戸より七十里あま

八幡宮　府中六所宮の末社ハ甲州街道八幡宿の道より左ハ

あり祭ハ應神天皇なり六所宮の神主猿渡氏兼帯奉祀

す相傳　聖武天皇の御宇日域の國こゝハ勸請し宮宮ハ和の

との皆是八幡村の八幡宮とのハ多くハ總社神祠の近きよりの

當社も古ハ本社禮殿並ひ建く莊嚴場こゝより後ハ衰

衰敝ハ逮ひ今ハ即茅宮小社なり　四年あまり前ハ老杉一株

暴風ハ吹折て今ハ空ハ聳え千歳の徴と

地名あり古の宮守居住の跡ありとハ

瀧の社　當社も六所宮の末社ハ八幡宮より三町あまり

東南の方ハあり祭神倉稲魂大神なり社の傍ハ少し斗の

国立公文書館
National Archives of Japan

飛泉あり六所宮の御手洗池と称を毎年五月五日大祭の時
神幸供奉の輩八五月朔日より此龍に浸て身を清め神支ふ
たつさはると云

石塚社　當社も又六所宮の末社ゆゑ同所南の方代小川の辺に
あり祭神磐筒男命磐筒女命二座なり

府中驛舍　甲州街道の宮驛ゆゑ江戸日本橋より七里布田より一里廿七丁
日野へ二里八丁あり　旅舍多し　新宿本宿番場宿等の名あり

府ゆゑ上古國造居館の地あり和名類聚抄ゆゑ武蔵國府を
多麻郡ゆゑと載せり徴するに延喜延長の頃一変して此辺
を小川郷と称す風土記曰小川郷公穀二百六十七束三毛田貢ハ松桃戰靴之類云く又其後小野小
川の称止て府中領と總称せ尚此郡玉川を境とし川南を多
西郡川北を多東郡とも称しかるに古文書ゆゑ

越前越後皆府中と称せり

常陸對馬長門

辻村文庫

国立公文書館
National Archives of Japan